

第一節 豊かな人間関係を育む

希望の光みちが通るとは、分かりやすく言えば、日々心も穏やかに、ゆったりと生きることです。なかなかそうできないのは、人と出会う中で、心が乱れるからです。しかし、穏やかな心で生きることが身に付くと、人生は随分と変わります。

よって、どのような場面でも、希望の光みちが通るように心掛けることです。周りに、気がせい、何かにあおられるように生きている人がいても、自分はゆったりしていることです。いら立っている人に出会っても、穏やかな感じ方、穏やかな態度、穏やかな言葉遣いで触れることです。そこに、良い人間関係がつくられていきます。

神の教えを、宗教的な教義ではなく、自身の生き方、信念として学ぶことです。学びを重ねていくと、病気もしないでいることに気付くでしょう。逆に、大きな病気をしたり、問題を抱えたりしたときは、そうなるような感覚でいるということです。「あの人が許せない」と、恨んだり、憎んだりする心が、悩みの原因になるからです。

憎んではいけないと分かっているにもかかわらず、気持ちを流せないのは、自分の角度だけで物事を見ているのです。「自分は憎みたくない。文句も言いたくない。でも、この人が言ってきたのだから…」と言えば、どうでしょうか。立場を変えれば、相手も同じことを言うでしょう。それは、お互いに自分の思いを言い続けることになりかねません。

このような感じ方を、まず家の中ではしないことです。家庭は、とても大切な所だからです。ところが、家庭よりも、仕事を優先する人もいます。ですから、どこかで取り返しのないことが起きてしまうのです。

物事の組み立てには、順序があります。家を建てるときにも、事を成し遂げるときにも、順序があります。大きな試験に臨むときは、勉強しなければなりません。勉強もせず、お札を買って、合格祈願と念じて受かるのであれば、学校は要らなくなります。これが基本です。

家庭を大切にしないと、人生のどこかで問題を起すこと、神はお教えくださいます。家庭の中で、日々穏やかに生きていけば、仕合せの六つの花びらが開きます。夫婦が常に会話していると、夫が、妻が何を考えているのかが分かります。なぜ怒っているのか、なぜ泣いているのか、なぜ口を利かないのか、その理由が分かります。そうして夫婦が仲良くすると、親子も仲良くなり、子供の問題が起きてくることはありません。

例えば、子供が受験に失敗したのなら、もう一回受けるか、諦めればよいのです。試験の前日に子供の具合が悪くなったのなら、すぐ病院に連れて行くべきです。神の教えを学んでいると、何が大切なのかが分かるはずで、ところが、現実問題、そうできないのは、知識が先行